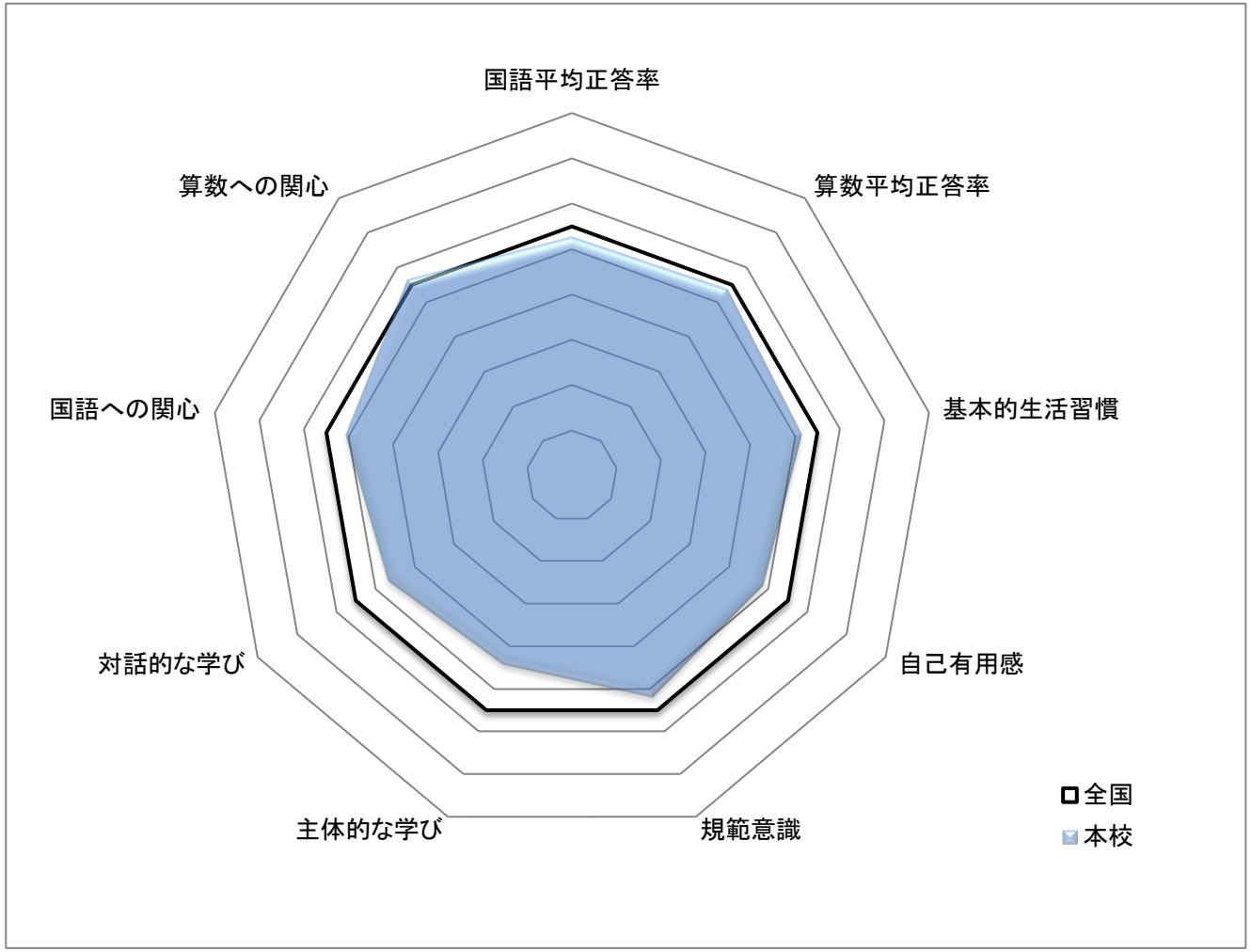
令和６年度 全国学力・学習状況調査結果における課題分析表（小学校）

江戸川区立大杉東小学校

●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

算数への関心・意欲が全国と比較し上回る結果となっているが、算数の平均正答率は昨年度よりも低くなっている。国語の平均正答率は、全国よりも下回ってはいるが、本校の例年の平均正答率の推移を見ると、確実に上がってきている。領域別に見ると、国語「書くこと」において正答率が全国よりも若干上回った。「話すこと・聞くこと」の領域が低く、課題である。算数では全領域において正答率が低かった。国語・算数とともに、無回答の割合は、０％となった。

《授業改善のポイント》

教科を問わず、自己肯定感の低さが学習への意欲の低下にもつながっていると考えられる。国語だけでなく、どの教科においても、何を伝えられているのか、自分の考えをまとめ、分かりやすく伝えるためにはどうしたらよいのかという「話すこと・聞くこと」に苦手意識が強い。そのためにも、様々な教科の中で、自分の考えを伝えていく活動を意図的に設定していく。子供たちが必要感をもって、授業に取り組める課題の設定、発問の工夫等教材研究を行っていく。また、日々の生活の中で、学習が役立つこと、学習の楽しさ、「できたという自信を付けさせるようにしていくこと」が必須である。

《チャートの特徴》

＜全国と本校の平均正答率＞
国語　全国　67．7%　　本校　64%
算数　全国　63．4%　　本校　61%
全国平均より国語・算数ともに低いが、国語の正答率は昨年度より1%上がり、算数は1%下がった。昨年度同様、算数への関心が全校の肯定的回答より1．03ポイント高まっている。国語への関心、対話的な学び、主体的な学び、規範意識、自己有用感、生活・学習習慣が全国平均を下回っている。

《家庭・地域への働きかけ》

学年だより、保護者会、個人面談を通じて、子供の活躍やよさを発信し、家庭でも良いところを褒め、伸ばしていけるように促していく。全国学力調査の個別評価シートを、児童本人、保護者が共有し、苦手とする単元を把握していただき、家庭学習にも生かしていただくように促していく。